

学部間共通科目運営委員会

1 目的・目標

明治大学の各学部に設置される共通科目（情報科学センター，国際交流センター，資格課程委員会及び学部間共通外国語教育運営委員会のそれぞれが運営する授業科目を除く。以下「学部間共通科目」という。）の授業計画を立案し，及びその円滑な運営を図るため，教務部委員会の下に，専門部会として明治大学学部間共通科目運営委員会は置かれている。

本委員会では主に（１）学部間共通総合講座，（２）共通語学科目，（３）体育実技科目の学部間相互乗入れ，（４）二部学部間共通科目等の共通科目について，他の機関との連携を図りながら検討に取り組んでいる。

各学部間における科目履修，単位修得の垣根を低くし，学部間共通科目化を推進することが，本委員会の大きな目的である。

2 現状

(1) 学部間共通総合講座について

①学部間共通総合講座の趣旨

社会の制度や仕組みが大きく変化するなかにあって，本学の教育理念・目的は「個性を大切にし自立心の強い人材を育成する」ことにある。

学部間共通総合講座は，この教育理念・目的に基づき，学部設置のカリキュラムを基礎としながら，なお学部や文理の枠を越えた学際的講義を学生諸君に積極的に提供することにより，幅広い学問的視野や問題発見能力，判断能力を培うことを主眼とするものである。本学の全ての学生にとって有益となるテーマをそうした趣旨のもと多様な講座を設定している。

また，各々の講座は，各分野の第一線で活躍するゲスト講師を多数招き，現代社会で話題となっている事柄，最先端のホットなニュース等をテーマに取り上げている。

②学部間共通総合講座の体系について

この講座は，（ア）地球市民講座，（イ）技術戦略とビジネス講座，（ウ）現代メディア講座，（エ）キャリアデザイン講座，（オ）歴史・哲学講座の５つの体系に分類することができる。各講座の趣旨は次のとおりとなっている。

（ア）地球市民講座

一つの課題が地球的，国際的かつ，地域的に波及する時代の中で，私達がこの時代を地球市民として歩み考えねばならぬ問題を正面から捉えるものである。

（イ）技術戦略とビジネス講座

進歩の著しい技術や知財を企業戦略の中で考える。国際化や情報化が進む企業や経営についても認識を深める。起業や知的財産の問題，新たな経営動向などの認識を深める。

（ウ）現代メディア講座

政治・経済・社会・スポーツ・外信・科学・論説担当など，各分野の一線の記者が取材を通して得た経験をもとにした講義。現代社会の実像に迫り，その特徴を浮き彫りにすると共に，メディアの活動・役割についても学ぶことができる。

(エ) キャリアデザイン講座

目的をもって学習することが大切な時代である。人生と仕事についての基本を学んだり、明大の就職課の活動についても知ることができる。また、一線で活躍する職業人の話を聞くと共に、司書・会計士・税理士などの具体的な職業について学ぶことができる。

(オ) 歴史・哲学講座

この講座は、私達が身体も精神も包括する存在として、己を見つめ、己の歴史的 위치を確認し、未来に向けての生き方を探求するものである。

③ 学部間共通総合講座の運営方法について

この講座は、経験豊富な本学教授陣に加え、広く学外からその分野の第一人者を講師として招聘し、リレー方式で講義を進める「総合授業」として実施している。

一つの講座は、学年暦に従って授業が設定されており、各授業ごとにテーマが設定されています。このテーマごとに、各々の分野のエキスパートが講義を担当し、結果として大きなテーマ（講座のタイトル）について総合的に理解することとなる。複数の講師から学ぶことにより、多角的なものの見方を養い、教科書では学べない多様な実地体験を聞けるといったメリットがある。

学部間共通総合講座は、1995年度から開設しており、2006年度は、3地区において、27テーマ42講座を開設し、前後期合わせて6100名を越える履修者数を数えている。

(2) 共通語学科目について

共通語学科目としては、ロシア語11コマ（文学部設置科目7コマ、経営学部設置科目4コマ）、スペイン語1コマ（文学部設置科目）が設置されており、ロシア語は、法学部・商学部・文学部・経営学部・農学部の学生、スペイン語は、政治経済学部・文学部の学生に受講する機会を提供している。

(3) 体育実技科目の学部間相互乗入れについて

和泉地区は2000年度から、生田地区は2001年度から選択体育実技科目の学部間相互乗入れを実施している。これにより、学生に対し、希望する種目の受講機会を拡大して提供することができた。

さらに、2005年度からは、和泉地区開講科目に関しては、2年次に限って、募集の際の科目設置学部在籍学生優先の受付をとりやめ、他学部も含めて一斉に募集する方式へと改善を図り、学生の受講機会を拡げている。

(4) 二部学部間共通科目について

現行二部の学生は時間割上の制約によって、科目の選択がせばめられている状況にある。この制約を補うために他学部の豊富な科目を、学部間で共通化した、「二部学部間共通科目」を開講している。

さらに、2006年度開講科目については、教養科目中心の設置から専門科目まで拡大し開講することとして二部学生の受講機会を拡大した。

3 長所と問題点

本学に設置されている多種多様、豊富な科目を科目設置学部以外の学生に開放し、共通化を推進することは、学生にとっては幅広い科目の履修、所属学部には設置されていない科目の履修が可能となり、有意義なこととなる。

ただし、学部の教育理念によって、その科目の位置付け、捉え方に差異があるため、その科目の取扱い方、履修可能な上限単位数等については、学部ごとに異なっているのが現状である。

(1) 学部間共通総合講座について

近年、魅力ある講座を多数設置したことにより、履修者数が激増している。ただ、このことにより、特に和泉校舎では教室の確保が困難な状況となっているため、講座によっては履修制限等を行い、受講者を制限している講座もある。

(2) 共通語学科目について

本学では、ロシア語、スペイン語の設置科目数は少ない状況であるが、共通化により、この科目の履修する機会を多く与えることができる。

(3) 体育実技科目の学部間相互乗入れについて

スポーツには多種多様な種目があるが、この科目の学部間相互乗入れにより、幅広い種目（卓球、ゴルフ、水泳、サッカー、剣道、フィットネス、アクアスポーツ他）の中で興味のある種目、所属学部では設置されていない種目の科目を履修する機会を与えることができる。

(4) 二部学部間共通科目について

現行二部廃止に伴い、現行二部設置の各学部の設置科目数は学年進行により年々減少することとなる。これにより履修選択の幅が狭まらないよう、他学部の科目を活用し共通化することは、学生にとって大きなメリットとなる。

4 将来の展望

本学では、多様な科目設置機関（学部、資格課程、情報科学センター、国際交流センター、学部間共通外国語運営委員会及び学部間共通科目運営委員会がある。）による科目群・科目数が全体として調整されずに設置され、また更に科目の細分化が進行していくならば、種々の問題が生じてくる危険性がある。

大学は、2004年4月をもって、二部の学生募集の停止と新学部を含めた「文系全学部の授業設計のフレックス化」を決定している。「授業設計のフレックス化」は、文系全学部がそれぞれに望ましい形でこれを実施することを承認しているが、その際各学部とも学部間での科目の共通化、連携の強化を提言している。

このような学部間共通化の必要性が要望されている状況に鑑み、本委員会では、各学部、各関係機関との連携を強化し、学部間の科目の共通化の基本方針についての諸方策を推進していきたい。

(1) 学部間共通総合講座について

2007年度以降も、各学部、各機関から積極的に魅力ある斬新な講座を提供してもらい、

学生の関心にも配慮したテーマを設定するとともに、今後とも広く学外からその分野の第一人者を講師として招聘し、受講生の知的好奇心を向上させ学問的成果を上げるよう努めていきたい。

(2) 共通語学科目について

2007年度以降も、社会状況の変化、学生からの要望等を考慮しながら、共通語学科目についての検討をし、共通化を推進していきたい。

(3) 体育実技科目の学部間相互乗入れについて

2007年度以降も体育教員会と連携を強化しながら、相互乗入れをさらに推進していきたい。

(4) 二部学部間共通科目について

2006年度末に、二部4年生の卒業となる。残る在籍原級生についても、科目の履修選択の機会をできるだけ多く与えられるよう、共通化を継続していきたい。

以 上